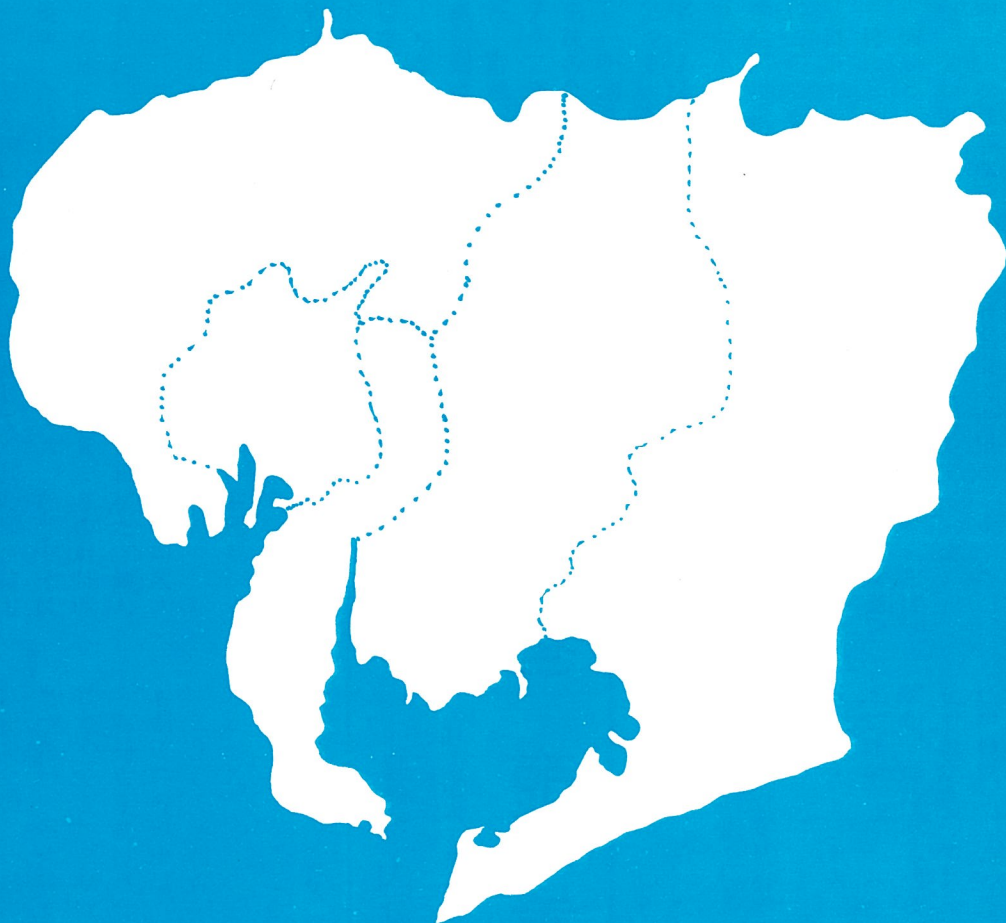


観の眼



目 次	
卷 頭 言.....	1
我が師 杉山文蔵先生.....	2
特別寄稿・想い出.....	4
第 8 回全日本女子学生剣道優勝大会.....	6
審査雑感.....	7
称号及び段位合格者.....	8
愛知県警察剣道だより.....	9
第5回全国剣道連盟対抗剣道優勝大会.....	9
第20回全国高校定通制剣道大会.....	10
あいち国体にむけて.....	11
全員の声.....	13
各地区剣連だより.....	16
大会報告.....	18
事務局だより.....	20
手数料一覧.....	21
平成 2 年度事業計画(案).....	22
大会要項.....	25
附・大会申込書	

第13号



財団法人

愛知県剣道連盟

剣道教育

昭和三十二年四月、私は有松中学校長になった。有松町は旧東海道に沿った市街地と、農村の桶狭間地区が一緒になった町であった。市街地は有松絞で徳川時代から全国にその名が知られている。また桶狭間は織田信長と今川義元が戦った古戦場があり、全国に有名である。今は名古屋市緑区になっている。

生徒はおとなしいが活気に乏しかった。まず生徒の気力を養成するために、クラブ活動を盛んにしようとした。野球、庭球、卓球、排球、柔道、剣道、サッカー、ソフトボールなどのクラブが一斉に活躍した。どの部が最初に優勝するか競いあった。その指導は全職員で当ったのである。各クラブ活動は一日一時間以内で能率的に行った。自主的にやったので活動は最も楽しいものになった。二年目からはぼつぼつ入賞した。中日新聞社主催の尾南地区野球大会で、野球部が優勝した時は中学校が沸き返った。父兄も沸いた。他部もしばしば入賞するようになった。

私は剣道部を応援した。校長会や研究会で出張が多かったが、急いで学校に帰っては生徒と一縮に剣道をやった。全力をあげたので剣道も三年目には県大会で優勝旗をもらうことができた。剣道は学校行事として、男子生徒全員が寒稽古を行った。冬休み中、朝六時から七時まで毎日一時間ずつ行った。宿直の先生にお願いして、体育館には五

私が一番心配したのは、高校進学の成績であった。ところが全く心配無用であった。旭丘、明和、瑞陵の名門校へ生徒は次々と進学してくれた。入学後も成績が良く、東大、京大へと進んでいった。

生徒はやる気ができてきた。礼儀正しくなった。問題を起こす生徒がなくなってきた。剣道を修行すれば、いかにけいし



巻頭言

財団法人 愛知県剣道連盟
副会長 内藤正之助

時に電灯を入れてもらった。校下の方々にも応援していただいた。体育館には熱い雰囲気がいち溢れた。

一月八日の第三学期の始業式後、剣道大会が行われた。個人、学級、地区、職員などの対抗戦は熱戦の連続であった。女子は必死で応援してくれた。生徒も次第に実力がつき、剣道二段の生徒も現れた。

世の中にあっても、落伍せず幸福に暮らせることを知ってうれしかった。

こうして寒稽古がすんでからも剣道部の連中は、私に「今後朝稽古を続けさせて下さい。」と言ってきた。私は大変だとは思ったが、朝六時までには学校に出て生徒と一緒に練習をした。夜は青年学級で一晩おきに剣道を教えた。町の剣道愛好家の人

々も学校に集まって、剣道を楽しまれた。医師、教師、警官、会社員の方々で賑った。特に教員の方々には審査をどんどん受けてもらった。四段、五段の方が数名出来た。他中学校の剣道顧問に栄転してもらった。

このようにして十年間、有松中学校で剣道教育を行った。先生も生徒も地区の人々もこれを非常によろこんで、自分たちの誇りに思っていたようだ。新聞にも、テレビにも出していた。

私も六段、教士、七段と進んだ。そして段が進むにつれて、剣道の深さを学んだ。剣道が哲学であること。真の不動心は止心のないことである。沢庵禅師の不動神妙録に「止まれば止まる心は動いても動かぬに候。」や、剣の心は曇りのない平常心を作ることであり、己を捨てることである。「山川の末を流るる枋殻も身を捨ててこそ浮ぶ瀬もあれ。」

また剣道は芸術である。姿勢や態度の美しき、人体の動きの美は本当にすばらしい。私の剣道に助けられたことは莫大だ。

我が師 杉山文蔵先生

剣道教士七段 水谷徳正



「我が師。」と題して先生を一人占めた様な言い方をして申し訳ありませんが、これには次のような経緯があったからです。

昭和十年頃は旧満洲の一角に数年来立ち籠めていた戦雲が、同十二年の日支事変へと大きく拡がろうとする風雲急な時代で中学以上の学校では軍事教練が行われ、小学校でも高学年には体操の時間に剣道が取り入れられました。此の時、私も始めて剣道を体験させられました。

殆ど基本稽古とて無く、実戦さながらのたたき合いの地稽古で、体の小さい方は私は、大きな体で力の強い級友に会うと散々に打たれました。けれども口惜さ、痛さの底で幼稚な考えながら「剣道は技だ。力ではない。」と信じて居ました。そして中学ではきつと剣道部に入ろうと、心

入れて載き、心から来てよかったと思いました。

先生の幼小の頃名古屋市東区に高尚館と云う剣道場がありました。創立者の加藤貫一良智先生は若くして江戸に出て千葉道場門下の坂田なる人に剣を学び、帰名後も千葉門下の高弟對島なる人を名古屋に招いて北辰一刀流を学び、遂に免許皆伝を得られた人でした。

当時先生の尊父清太郎先生は土地で名ある実業家でありましたが剣道が家業より好きで、前記加藤先生のもとで剣道を学ばれ、後には同門の兄弟弟子である小川金之助先生（後の範士十段、京都武専主任教授）を京に訪ね、頼んで武専の講習生と共に稽古をされた程の愛剣家で、当然先生は、この父親から幼小の頃より強く影響を受けられたとのことでした。大高の高等学校を卒業後実業補習学校に入学されると、愈々先生の本格的な剣道修業が始まりました。

日課のように、毎朝自転車でお家を出ると一路高尚館へ。加藤先生から北辰一刀流の組太刀を習い、次に加藤先生が指導されて居た明倫中学校（跡地愛知商業高等学校）の剣道部で練習し、次に武徳会愛知県支部（中区大池町）の講習生とし

に誓っていました。

中学に入った時、剣道の先生は加藤七左エ門先生と杉山先生で、加藤先生は大柄な方でありましたが、杉山先生は腕が太く肩巾のガツシリとした方でしたが、「よし、一生懸命にやっつて先生のようになろう。」と思つて入部し、以来今日に到るまで御指導いただくことになったからであります。

明治三十七年十二月十三日、旧知多郡大高町に生る。

大正八年三月、小学校卒業し私立明倫中学校に剣道修業に通う傍ら、名古屋市内の高尚館の範士加藤貫一先生に師事する。

大正十三年 京都武徳会本部武専の聴講生となり、弘道館範士小川金之助先生に師事する。

大正十三年 京都武徳会本部武専の聴講生となり、弘道館範士小川金之助先生に師事する。

同十二月 剣道四段授与さる。
大正十五年五月 精錬証授与さる。
昭和二年 武徳会愛知支部教授を嘱託さる。

昭和六年 五段授与さる。
昭和七年 名古屋刑務所剣道教師嘱託さる。
昭和八年四月 名古屋高等工業学校剣道教師嘱託さる。

昭和十一年 剣道教師号授与さる。
昭和十三年 名古屋市武道場師範となり後、名古屋西町武道場主任師範となる。（弟子中に、伊東守信、翁長良明両先生が居られた。）

昭和十四年 名古屋憲兵隊本部剣道師範嘱託さる。
昭和二十三年 愛知県明和高等学校事務職員

昭和二十八年四月 名古屋工業大学剣道師範
昭和三十二年五月 七段合格
昭和四十年 明和高等学校退職、愛知工業大学剣道教師

昭和四十一年 名工大退職。伊東守信先生後任となる。
昭和四十五年 愛工大退職。深田正夫先生後任となる。同年より昭和区白金児童館小年剣道の指導始まる。

昭和五十八年五月 範士号授与さる。

て練習すると、もう暗くなった道を大高まで。これを雨が降ろうが、風が吹こうが、雪が降ろうが毎日続けられました。後には武徳会の門奈先生から八高（現名大教養学部）へも練習に来るように薦められ、明倫中学を終ると武徳会の前に八高へも走られたとのこと。三段になられた頃、加藤先生の許



しを得て京都の武専の聴講生として上洛、小川金之助先生の弘道館に寄宿して稽古に励み、間もなく、京都師範学校、聖峯中学校の指導をされ、川端署へは小川先生の代理として出向稽古と重ねられました。

又京都大会等で、京に来られる多くの高名の先生方の指導も受けられて、水を得た魚の如く先生は活躍されました。そして先生の剣名、京に定まる

以上が先生の約八十年に亘る御経歴であります。昨年十一月二十六日、お宅で直接御聞きして記録したものです。

当時先生は膝の関節を悪くされて、病院へ通う以外は殆ど外出されないとのことでした。

可成り前から先生には高血圧、又それがもとの心臓病等で体調がお悪かったようで気分の良い折に、昭和署の区民剣道会に出て、子供達と稽古をしたり、剣道の話をするのが唯一の楽しみとして居られたのですが、外出が困難になられてからは、運動不足を伴い、以前に増して御不調のようで、話し好きな方でしたが、余り人と話をするのを好まれないような流れ承って居りました。

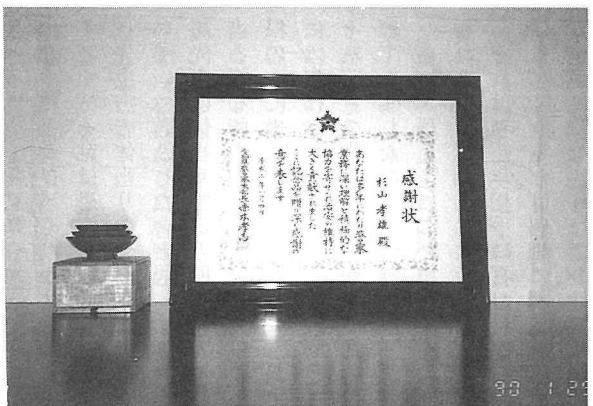
然し、是非先生のお口から詳細な御経歴をお聞きしたいと思つて居りましたので、よく先生をお訪ねになつて話し相手をして居られた小笠原和雄先生に先生の御様子をお尋ねしたところ「そんな心配はいりません。貴方となら先生は喜んでお話をされますよ。」と云われたのに力を得て、十一月には比較的暖い日の当日少々の不安感と共に自宅のドアホーンを押しました。意外にも先生自ら戸を開かれて「上れ、上れ。」と招じ

県警本部長より

杉山会長に

感謝状

去る一月八日、名鉄本社にて当連盟杉山孝雄会長に永年警察業務にご協力をいただいていると云うことで、県警本部長より感謝状と記念品が贈られました。



想い出

剣道範士八段 加藤萬寿一

広報の先生から何か書けと言われましたが、生来文才のない私は、さて何を書いたらよいものか思案の末、武術教員養成所から武道専門学校へ、そして三十五期を最後に廃校となつて、今はその跡地に建立された「大日本武徳会 武道専門学校」の碑と、武専最後の校長であり俳人でもあった鈴鹿登先生が寄せられた正門の句碑風薫る左文武の学舎跡

共に私達にとつては忘れる事のできない殿堂でもあります。かつては剣聖といわれた内藤高治先生指導のもとに、当時の大先生方の修練の場であり、又私達も鍛えられた武徳殿内の太柱の無数の傷跡のなから数々の事を想い出しながら、先生方から受けた指導のありかた、稽古法、伝統的な躰の一端について書いてみました。

吾々の学校は全校生（柔剣道百六十名、各学年四十名）で術科の間には柔剣道それぞれの道場に分かれ、剣道は武徳殿内にコの字にならび、各学年とも毎学期の成績により序列

の変更があり、それがお互いが努力し発奮する動機にもなったと思えます。稽古は朝稽古に始まり、午前中は文科、午後術科で三時まで、週の月・火・水曜は稽古、木曜は形、金曜は形一時間、切り返し三〇分、土曜は切り返し三〇分、あとは稽古でした。此の様に形の時間を多くとりいれたのは、「剣道の基本は形にある」という発想で冬でも先生方は汗びつしよりになつて指導されたのです。

教授陣は、小川金之助（十段）先生を筆頭に、宮崎茂三郎（九段）、津崎（九段）、佐藤忠三（九段）先生以下十名の大家がそれぞれの剣風をもつて指導に当たられました。稽古は、三年迄は切り返しと懸り稽古の徹底、四年は元立ちで下級生の指導と先生との互稽稽古でした。

切り返し、面体当り、左右面の切り返しですが、現在の様な前進五、後退四でなく、「手のあがるうち、声のであるうちは大丈夫」と徹底的に鍛えられました。吾々も大変でしたが、先生は「お前達も大変だが俺達も頭

髪がさわれない程痛いんだよ」とよく云われました。

懸り稽古、遠間から大きく振りかぶつての面体当り、小手一面の連続ばかりでした。だが今日の所謂「しごき」の様なものとは違って、生徒の体力、実力、気力に応じた鍛えかたでした。そしてこの二つの基本が私達に体力をつけ、癖を是正する最もよい方法であつたと思えました。

又あれ程の大家がそれぞれの剣風をもつて指導されたにもかかわらず、吾々には武専独特の一つのかたちとかが剣風とかいうのが無いのが残念に思つておりましたが、今にして思えば剣道は基本訓練によって得たものを打って覚え、打たれて覚える。所謂百練自得せよというのが指導法であつたからです。即ち先生方の稽古の特徴について、

小川先生「ウム、イトコダ、ソコダ、ウム、ヨシ」
津崎先生「ソレソレソコダ、マダマダ、ソレモウ一本ユクゾ」
と総て先々先で攻撃的でした。

佐藤忠先生 立ちあがると必ず間合をとつてピタッと構えられ、打ちにゆくと「オットット、ソレデハ駄目ダ」
更に菅先生は突きが得意で「一寸

突イタ」とその実一寸どころでははなく相手がひっくりかえるくらいすごく、それは恐ろしい存在でした。

先生方の体当りの受け止め方について一寸言及したいと思えます。小川先生に体当りすると厚いゴム板に当る様な弾力があり、宮崎先生には松の木に当るようにかたく、菅先生には岩にぶつかつていいる様な感じて、それぞれの先生の特徴がよくあらわれていました。

さて「構え」について、非常に叱られた事をお話ししましょう。

それは私が「相手に打たれない為には、できるだけ斜めに構えたほうが有利ではないか」と勝手に理屈をつけて、半身に近い構えをしていたら、先生曰く「何だその構えは、それでも専門家になる積りか、道具を始末して帰れ」と大目玉をくつた事がありました。其の後もそれが直らなくて随分苦労しました。即ち若い時についた癖はなかなか直らないものだとつくづく思いました。

次に私が昇段試験に失敗した時、佐藤先生に「何処が悪いのでしょうか」と伺つたら、先生曰く「それは君が下手だから」の一言でした。私は啞然として返す言葉もなくスゴスゴと引き退つてきました。それから

半月程して「一寸来なさい」と呼ばれ「君は割つて打つ事を知らない。それではいつまでたつても駄目だ」と諭された事は今でも忘れられませんが、此の様に理論的な説明は無く、伺えば一寸アドバイスされるだけでした。

最後に武専には礎といつか厳しい躰があつて、一年生は上級生の稽古着、面を干し、稽古時迄にたたんで置くとか、二・三年頃になると先生のお供をして行く時「三尺さがつて師の影を踏まず」とのたとえ通り、必ず左後方からついて行つたものです。又礼儀は特に厳しくて、街では上級生に会えば何時何処でも約八歩前で停止、敬礼しなければならぬので、入学して夏休み頃までは一人では歩けない程で、此れも今にして思えば誠に懐かしいほほえましい風景です。

あれからもう半世紀余り、今は数少なくなつた同窓の方々とは会う度に、笑い乍ら語りあうのを楽しんでおります。



第24回全日本居合道大会 (都道府県対抗優勝試合)

を終了して

競技委員会 一村忠男

は沖繩県、個人演武者四六都道府県代表選手一三八名、共に三五九名計約五百名が参加、大会役員並競技役員二九三名の構成で行われたこの期に書面をお借りして、お礼を申し上げます。

平素は居合道発展のために格別のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。我が国は伝統的な文化とその精神をともしれば環境におかされ忘れがちではないでしょうか。私共は日本古来の伝統とその理念を脈々と受け継ぎながらも、今日に於いてはスポーツ化の傾向をおびている剣道に比し、日本精神の象徴と考えられる日本刀の操法と、心による静動機に依つて身体を鍛錬し、もつて心身を厳しく練磨する居合道に精進いたしております。

本大会は全国から居合道界精鋭約五百名あまりを名古屋市に招く名実共に居合道界の祭典で、斯道の普及発展のために意義深い大会であつたと想い自負している次第であります。勝負の世界は非常に厳しく冷たいも



日時 平成元年十月十五日(日)九時
場所 名古屋地域露橋スポーツセンター

(財)全日本剣道連盟主催・(財)愛知県剣道連盟主管・(財)日本船舶振興会・愛知県・並びに教育委員会・(財)愛知県体育協会・名古屋市・並びに教育委員会・(財)名古屋市体育協会・中日新聞社後援で居合道大会が盛大に開催され、北は北海道、南

のである。結果はどうであろうとも選手諸君の修練のためのものである事は云うまでもありません。

次に勝負の報告をしますと、上位総合成績団体では、第一位東京都、第二位鹿児島県、第三位岡山県、個人では七段の部第一位岡山県春名松男選手、第二位高知県三谷昭雄選手、六段の部第一位東京都金田和久選手、第二位愛知県前田利和選手、五段の部第一位東京都桑田正悟選手、第二位鹿児島県是枝幸也選手、以上の成績でした。

居合道は一部に於いて、一時的に感觸の寒心があるが如く、相手があくまでも想定された敵である為、観客から相手が見えないままに刀体の舞のみにて理解に苦しむ技のみで、斯道の真髄に至ればご理解を得ようと思ひます。ある一感で愛知県が個人六段の部で二位に入賞した事は、出遅れた居合道にしては優美に値するのではないかと思つて居ります。其の陰には口には言えない各関係者のなみなみならぬ苦難の道程であつたと想ひます。

さすが全国大会だけあつて、よりすくつた居合人に於いての真剣を手にした演武は、刀の刃音が演武場を

(二) 感想

(1) 中級位といえる四段、五段の審査につきましては、なかなか厳しいものがあります。この段位は、指導者としての内容と、下段位の者を使いこなせる技術と態度が要求されます。その内容は、礼儀、着装すべ...

三段は、二段までの基礎の上に立って、対人格技の度合いに重点が移り、技もこなせ打突も正確になり、気迫のある攻撃、打突ができるようになることが必要であります。以上、審査についての感想等を述べましたが、佐藤忠三範士の剣道の進歩の段階によりますと、

初級——見事に打突のできることに中級——理合にかなった打突のできることに上級——間合のとおり方、攻防の理合及び気品、威のあること



かたつむり

愛知県警察剣道だより

河本 正 治

皆さんの中には「柔道・剣道が警察の表芸である」と言われていることをご存知の方も多数おられると思います。

愛知県警察職員一万二千余名中約九八パーセントの者が、柔道・剣道のいずれかの有段者であると聞けばなるほどと思われるのではないのでしょうか。このうち六段以上の高段者も、六三人と数多くおります。

現在、警察署の武道場を少年剣道教室などに開放している警察署は多数あります。又警察官等が指導に携わっている教室・道場等は八十余道場あり、地域の皆さんから親しまれています。

これらの部員は、愛知県警を代表し部内外の大会に出場しておりますが、本年一年間の部外の大会の実績を紹介いたしますと、

- 一 六月四日 於 露橋 尚武杯争奪剣道大会 優勝
二 七月二日 於 西枇杷島 六団体対抗剣道大会 優勝
三 九月二十三日 於 露橋 愛知県剣道段別選手権五段の部 優勝、二位、三位(二名)
四 全日本剣道選手権愛知県予選 (六段以上)

県代表出場選手二名を派遣(出場者 東良美六段、山崎尚六段)となり。尚、十一月三日の日本武道館における本大会で、東良美選手はベスト8に進出した。同選手は、昨年度もベスト8の成績を挙げ、全日本剣道連盟指定の強化選手であります。

このほか県警には有力選手が多数おり、国体、都道府県大会等々に出場し活躍しております。今後、私達愛知県警察剣道部としては、一層剣道の修練を積み、愛知県剣道の発展に少しでもお役に立てればと思っております。

称号及び段位合格者

- 称号および段位合格者
剣道六段(七月十六日) 大河内鉄彦(28)
徳園元孝(29)
杖道六段(八月五日) 片田征治(49)
居合道七段(十一月十八日) 齊藤忠男(59)・木下 登(60)
居合道六段(十一月十八日) 宇井幸夫(37)・近藤勤助(50)
竹内秀一(61)
剣道六段(十一月二十三日) 中本治巳(29)・森 健志(30)
久保山敏(30)・竹崎裕恭(31)
生地志朗(34)・小野政範(35)
緒方文明(37)・山本 登(37)
坂柳充宏(43)・宮林勝義(44)
安部剛夫(45)・清水朝男(48)
武野博文(50)・石橋史安(50)
勝野峯雄(50)・大橋 勲(51)
鈴木恒治(53)・斎藤清人(60)
野尻辰夫(61)
剣道七段(十一月二十八日) 東 良美(32)・福永博文(36)
平原 稔(36)・阪口利雄(42)
居合道錬士(十一月二十九日) 吉田伸一(33)・石田忠男(47)
居合道教士(十一月二十九日) 尾野博之(37)・白井孝一(41)
秋丸隆士(43)・長良武司(45)
内田武夫(50)・諏訪園春巳(60)
木本正次(63)
剣道錬士(十一月二十九日) 大河内鉄彦(28)・徳園元孝(30)
杉浦雅人(35)・市村公勇(39)
服部 孝(40)・山中利曠(51)
宮下静雄(51)・武田信三郎(60)
大脇英雄(67)
居合道教士(十一月二十九日) 辻 強三(49)・山口峻輝(54)
村田和夫(59)
剣道錬士(十一月二十九日) 居合道錬士(十一月二十九日)



カット 名短付高 出田香里

第5回全国剣道連盟対抗剣道優勝大会

愛知県剣道連盟が主催する行事のなかで最大のこの大会は、平成元年十一月九日に名古屋市露橋スポーツセンターにて催され、全国から集まった名選手と対戦し、地元愛知チーム・名古屋チームが共に三位を勝ちえた。結果は次の通り

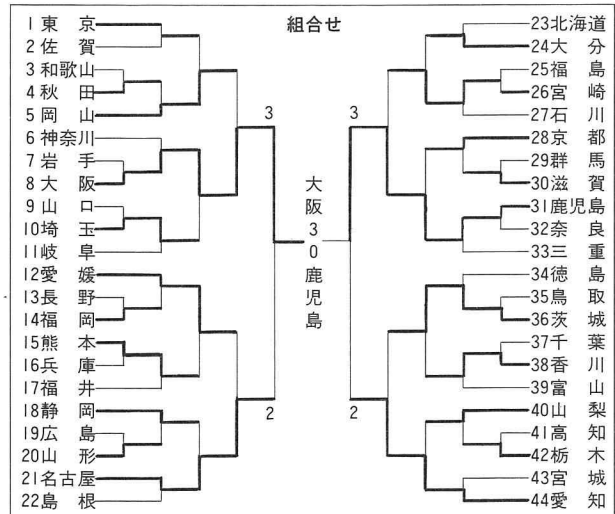


Table with columns: 順, チーム, 先鋒, 次鋒, 中堅, 副将, 大将, 勝数, 本数. Rows for 鹿児島県 and 愛知県.

Table with columns: 順, チーム, 先鋒, 次鋒, 中堅, 副将, 大将, 勝数, 本数. Rows for 大阪府 and 名古屋市.

Table with columns: 順, チーム, 先鋒, 次鋒, 中堅, 副将, 大将, 勝数, 本数. Rows for 大阪府 and 鹿児島県.

第20回全国高等学校通信制剣道大会

山田正敏

期日 平成元年八月十三日(日)
会場 東京・日本武道館
主催 全国高等学校体育連盟
全日本剣道連盟
東京都教育委員会
全国高等学校定時制通信制
教育振興会

夏の甲子園高校野球大会たけなわの頃、毎年東京の日本武道館において、働きながら学ぶ高校生剣士^①の祭典『全国高等学校定時制通信制剣道大会』が開催されている。

本年は団体戦出場チーム三四チーム、個人戦男子出場者八八名、個人戦女子出場者四八名の参加を得て、第20回記念大会として盛大に開催された。

愛知県チームは、六月に県大会を開催して個人戦から選手を選抜した混成チームである。悔いのない大会にしたい^②と各学校での練習はもちろん、夏休みに入った三日の日曜日を小牧高校で一回、瑞陵高校で二回の強化練習会を実施。日頃練習時間の少ない選手にとって精神的にも身

体的にも大変な強化練習であったと思われるが、選手達は実によく頑張りが、良いムードで大会に臨むことができた。

さて、団体戦では予選リーグで大阪Aに四対一、兵庫Bに五対〇と快勝して、二次リーグ戦に進出。ここで三年連続七回目の優勝を狙う神奈川Aと対戦した。神奈川Aの選手は全員が陸上自衛隊少年工科学校で学び、練習量は抜群。愛知県チームは全力をかたむけた試合となった。愛知は先鋒戦を落としたものの三連続引き分け、そして大将戦を物にして一③対一③。リーグ戦のため次の対京都戦が決勝トーナメント進出をかける試合となった。神奈川Aは京都に四対〇と勝ち、それを見届けたあとに愛知は京都に五対〇と圧勝。結局勝者数差で愛知が決勝トーナメントの準決勝戦に進出した。

波に乗った愛知は準決勝戦の香川に四対一、決勝戦の兵庫Aに五対〇と快勝し初優勝を決めた。
また、個人戦では男子・女子ともに善戦したもののメダルに手が届か

あいち国体にもむけて

技術委員 青 山 定 男

★はじめに

「若い力と感激に、燃えよ若人胸を張れ。肩にひとひらが散る。花も輝け希望に満ちて、競え青春強き者。」と大会歌の大合唱の歌声と、たくましい入場行進の足音が、平成二年の新春の今日、潮騒の如く私の脳裏にひびきわたってくる。そして、平成六年開催予定の愛知県体を迎えるに当って、選手強化の責任者の一人として、その責務の重大さを感じずにはいられないのである。

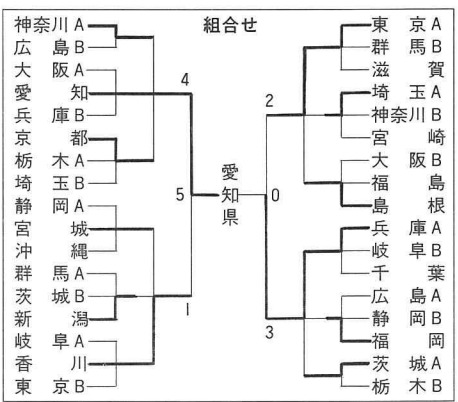
さて、第四十四回国民体育大会「はまなす国体」は、北海道一八市一町、一村の会場において「君よ今、北の大地の風となれ」をスローガンとして、平成元年九月十七日から二十二日までの六日間、全国四七都道府県から二万七三三人が参加して開催された。剣道競技は札幌市より列車で一時間程の距離にある、かつての炭鉱の町砂川市において実施された。私は一昨年(昭和六十三年)の京都市で開催された第四十三回国民体育大会には、成年の部の監督と

なかったが、それぞれ全力を出し切れない試合を見せてくれた。

これまで団体戦において、準優勝二回、三位四回の成績を残していただけに、今回の団体戦優勝は、選手はもちろん定時制通信制高校の関係者にとって喜びもひとしおである。

また、この陰には毎年県高校定時制通信制剣道大会の役員・審判として水谷好助先生(中京高校)をはじめとする全日制高校勤務の先生方の全面的な協力があることを忘れることはできない。心より御礼申し上げます。

日本武道館を後にする時、選手一人に優勝の感想をたずねたら「嬉しいです。お世話になった先生方や



副将 佐藤 コメコ 後藤
大将 河内 メコ 馬渡

② 少年少女は一回戦北海道と対戦した。地元北海道の出場とあって、観客の目は第二試合場に注がれる。先鋒共に譲らず激しい攻防の末、時間切れ寸前で面を取られ、遂に一本負けとなり一点先取された。次鋒戦は延長四回一分二十五秒の激しい試合展開となったが、当県の木村は遂に惜敗し二対〇となった。中堅鹿熊選手は堂々二本勝ちをして勝利への希望をつないでくれた。副将戦本県の土井選手は退勢を挽回すべく健闘したが、遂に一本負けとなり、大将戦は引き分けに終り、結局三対一で愛知は惜敗したが、少年男子と同様に稽古を積み重ねた試合巧者の北海道に善戦したことは賞賛に値しよう。

一回戦戦績

位置 愛知

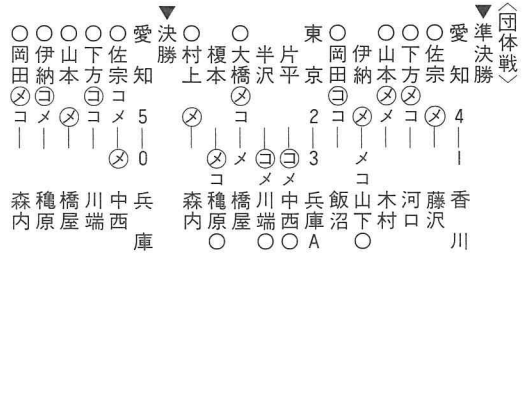
先鋒 北井 北海道
次鋒 木村 メ 牛木
中堅 鹿熊 メコ 横田
副将 土井 メ 塚
大将 瀬口 × 但木

③ 成年一部は一回戦香川県と対戦した。先鋒・次鋒・中堅の三選手は、奇しくも両県とも警察官同志であり、全国警察大会では共にAクラスで、

職場の人達に「ありがとうございまして」と言いたいです。」と返ってきた。その言葉を聞いて心を新たにしたのは私だけではないと思う。

愛知県選手

団体戦 先鋒 佐宗登幸・星南工業
次鋒 下方芳之・科技高日進
中堅 山本智也・科技高日進
副将 伊納英和・岡崎
大将 岡田正和・科技高日進
補欠 小川典之・刈谷東
補欠 樫木 誠・東海工業
個人戦男子 藤城利陸・東海工業
佐藤浩宣・小牧
女子 浅野ゆかり・桃陵
石本真弓・桃陵



実力伯仲の両県である。香川県の選手は特に先鋒戦に命運を懸けて、先鋒の山部選手の上段に対する戦略を十分に練り、上段の間を与えず、上段からの技を封じこめる戦法に徹した。相手の激しい勝負根性の前に、一本負けで惜敗した。先鋒戦で一点先取の勝運に乗った香川県の貧欲な激しい試合根性の前に、次鋒・中堅共に敗退し、引続き副将・大将も敗れて五対〇と言う予想外な結果となった。

一回戦戦績

位置 愛知

先鋒 山部 香川
次鋒 竹崎 メコ 松本
中堅 稲吉 メメ 伊丹
副将 神成 メメ 村上済
大将 松本 メ 村山政

二、反省

第四十三回国体では、成年の本県は一回戦不戦勝、二回戦強豪埼玉県を三対二で破り、三回戦も又強豪大阪を三対二で破り、後述の通り久方ぶりに準々決勝に進出し、団体開催を翌年に控えた北海道と対戦し二対二で敗退したが、第八位に入賞し、愛知県の総合得点獲得に寄与することが出来たが、第四十四回国体における本県剣道は、少年少女、成年一部共

に一回戦敗退と言う残念な結果になつてしまった。なお、当県の第四十四回国体総合成績は、天皇杯男女総合で八位(二六二点)、皇后杯(女子総合)では第七位(七六三五点)で入賞を実現したが、本県剣道は上述の如く一回戦敗退で、県の獲得得点に寄与する事が出来ずに、肩身の狭い思いをせざるを得ない現実をふまえて、平成二年における第四十五回国体においては臥薪嘗胆の決意で、捲土重来の成果を期待したいものである。

思うに、勝敗は紙一重であり、勝運を如何に自分の方に運びこむかと言ふ事ではないかと思う。それには、稽古の積み重ね方と、勝負根性をどのように育てるかと言ふことではないかと思う。特に少年(高校)において九州勢が総体的に、圧倒的な強さを維持しているのは「何か」を分析して、少年(高校)剣道の育成に力を注ぐことも大切ではなからうか。

★第四十三回京都国体成年戦績

- 準々決勝 二対三
- 位置 愛知 北海道
- 先鋒 山部 メ 佐賀
- 次鋒 東(良) コ コメ 林
- 中堅 東(一) コ 畠山
- 副将 松本 メコ 茂田
- 大将 深川 メメ 山下

少年男子強化担当責任者(高校)

⑩水谷好助 ⑪田中浩二

少年女子強化担当責任者(高校)

⑫柴田宗平 ⑬谷 昌行

(注) 少年男女担当責任者は仮決定とし、変更する場合もある。

国体強化への提言とお願ひ

- 一、国体選手になることへの誇りを持ち、積極的に選手候補の強化練習に、継続的に参加して欲しい。(平成元年においては、各職域の大会・各種県予選終了後の九月中旬以降の出席率の低下は、目も当てられない状態であった。)
- 二、選手選考において、地区及県予選がある場合は積極的に参加して欲しい。
- 三、選手強化のアイデアや意見を提出して欲しい。
- 四、県内中学校・高校・大学における将来有望な選手についての情報を提供して欲しい。
- 五、平成六年までの五ヶ年計画に基づき、高校を中心とした強化指定校導入に対する意見や要望を出して欲しい。

★まとめ

平成元年十二月十日県剣連稽古納めの折、県剣連相談役・技術委員長

★愛知県当局の第四十九回国体に向けての動向

- 一、第二回総括指導者研修会の実施
この研修会には、県剣連技術委員 深川辰磨先生と青山定男の二名が出席した。
- (一)、日時 平成元年三月十三日
午前十時三十分より午後三時四十五分
- (二)、場所 名古屋市内、東別院青少年会館
- (三)、午前の部
講師 藤井隆至氏(京都府教育庁指導部競技力向上対策室長)
演題 「第四十三回京都国体の選手強化を顧みて」
講演のポイント
①選手強化を突出させないで、スポーツ全般のレベルアップの中で(理解の中で)強化することが大切である。
②トータルな競技力が必要である。(普及と強化をドッキングさせながら、競技力を高めることが大切である。)
- ③国体選手の、専用練習場の確保が必要である。
- ④休館日を利用して、練習会場を確保することが大切である。

(四)、午後の部

- 講師 三宅義信氏(日本ウエイトリフティング協会常務理事、オリンピック金メダリスト)
- 演題 「限界への挑戦」
講演のポイント
①夢を持たせ目的を明確にする。
②機械を使いながら、野性的(自然になつた)トレーニングが必要である。(器材のみの依存は駄目である。)
- ※あらゆる筋肉を成長させるためには、海岸とかデコボコ道での、野性的なトレーニングが大切である。
- ③パワーを使わない競技はないので、固定したトレーニングは駄目である。
 - ④自然の法則になつた柔軟性のある筋力を育てるトレーニングが大切である。
 - ⑤眠らずにいても、戦える体力を作ることが必要である。(大会前には眠れない時がある。)
- 二、第四十九回国体の選手強化対策にかかわる平成元年度関係競技団体とのヒヤリングが実施された。
- (一) 期間 平成元年五月二十九日から六月十七日まで
 - (二) 場所 愛知県スポーツ会館

(三) 選手強化に関するヒヤリングのための基本調査

- ①選手強化担当者について
 - ②本県競技団体の競技レベルの実態と他府県の状況について
 - ③今年度の選手強化の方法について
 - ④第四十九回国体に向けての、今後の選手強化スケジュールについて
 - ⑤将来有望な選手について
 - ⑥大学における優秀な本県出身競技者について
 - ⑦選手強化に必要な備品について
 - ⑧強化指定校導入(高校を中心とした)に関する調査
- 以上の八項目にわたつて、第四十九回国体県対策本部の競技担当者、太田勝久・津田欣也の両先生と県剣連理事長谷鎌吉郎先生、技術委員青山定男と、愛知県高体連剣道部専門委員長水谷好助先生とヒヤリングを行い、第四十九回国体に向けてのビジョン作りがなされた。なお、③項目の選手強化担当者は、次の通りとなつた。
- 選手強化担当総括責任者
⑩谷 鎌吉郎 ⑪青山定男
成年男子強化担当責任者
⑫青山定男 ⑬中村 薫

会員の声

剣道と私

藪内照美

剣道との出会いは、中学一年生頃でした。たまたまテレビを見ていたところ、剣道の試合が放送されていて、単純な私は「かっこいい!私も防具をつけてやってみたい」と安易な考えで思っていました。すると、タイミングよく家の方に剣道募集広告が舞い込んできたのです。もう喜ばんばかりに父のもとへ相談に行きました。父は反対しませんでしたけど、入るにあつて約束ごとをさせられました。それは、「何かをやるからには、途中でやめるな」ということです。その

約束もあつてか今も続けていますが、でもその約束ごとと途中で破ろうかと思つたことは幾度もありました。しかし、自分でもわかないうちにやめられなくなつてしまつたようです。

剣道をやつていて良かったことは沢山あります。でも、その中で一番良かったことは、すばらしい指導者(久田達司先生)と出会えたことです。先生は、練習熱心で基本を大切にされる人です。私もいやになるぐらいいつも基本動作を指導され、時にはあまりにも激しい稽古で涙を見せた時もありました。まして、練習が始まる前の緊張感なんて言葉ではあらわせないほどの不安と恐怖でいっぱいでした。このような練習と先生の熱心な指導のおかげで、今年五月、五段に昇格することができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、私もこれから指導していくうえで、今まで指導された事をお手本にし、指導者として何を生徒に残してあげなければならないのか、また生徒がもっている一番いいものをどうやって引き出してやれるのかを、もう一度見つめなおして指導していきたいと思つています。



会員の声

ケンドウ

ゴードン・ステアー

日本剣道(刀法である)は、日本の伝統武術を理解し身をもって実践できるものを今日まで残している。

運動又は武術である剣道は、その起源を日本の封建時代に発している。初期の剣道は、侍たちの剣術(刃法)を研こうとするものであった。そして多くの練習場がその術に優れている名高い指導者に率いられて設立された。このようにして剣道は、今日のように広く行われてきた。

一七八〇年頃まで、多くの進歩の段階を経てきた。明治政府の文部省が、全公私私立の学校で剣道を正課とし、一八七一年に国内で広く認められた。

昔の侍の精神である武士道においては、精神的・肉体的訓練に重点がおかれ、そして剣道の哲学は、戦前日本の思想に混り合っていた。しかし、大戦後この緊密なかかわり合いが気づかれずにいるということはなかった。

に置かれる。そして精神を集中することによって、分離しているものが一体となるのである。肉体の心の「体」と、精神の心である「気」が組み合わさって「剣」に生命を与えるのである。大切なことは人間と刀と一体となることである。これらは指導者が剣道の修練者に修得させるべきものであると、信じているものである。

過去二十年間において、剣道は日本にしっかりと再確立され、外部へ広がりは始めている。ゆっくりとした努力が、このスポーツを国際的にして来た。ブラジル、オランダ、そして合衆国が、剣道の稽古を始められた国である。

日本に住んでいる我々の様な者にとって、剣道は日本文化を学び、文化交流をするための、また異なったアプローチの方法である。日本には多くの道場や施設があり、老若男女を問わず、すべての人々が剣道を学び稽古をしている。そして、貴方がスポーツに興味があるならば、又はただ日本の友人を作ることを望むなら、私は貴方が貴方の地域で剣道を提供する道場や学校を調べられることを勧めます。

米占領軍は第二次大戦後、剣道を禁止した。この禁止は十年以上に渡って続いたと同時に、好むと好まざると、戦後における剣道は、戦前の行き過ぎの一つとして禁止させられたのである。

一九六〇年代の終りに、剣道は再び広範な支持を得た。というのは、学校や私設道場で再び稽古され始めたからである。

多くの日本への訪問者がそうであるように、私も武術を学ぶことに興味を持ちました。特に積極的に剣道を求めたわけではないが、私は友人より大垣市の宏武館野村道場への紹介を受けました。大垣における最も古い道場である宏武館は、野村高次氏によって始められた。野村先生は一九八五年に亡くなられたが、八段位まで授けられた方である。



筆者紹介

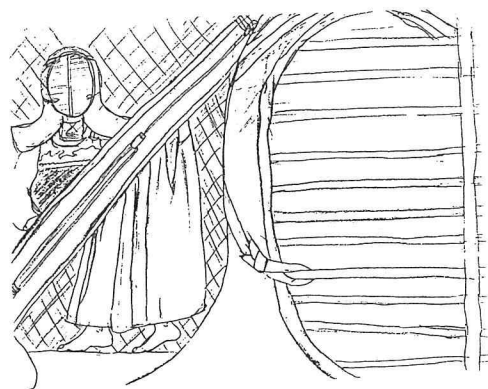
Gordon Stehr

(ゴードン・ステアー)
一九五九年 英国生まれ。米・テキサス州ヒューストン大卒。

一九八七年 来日。岐阜県教育委員会英語指導助手。

一九八九年 日本語学校にて日本語勉強中。現在は名古屋在住。剣歴は一九八七年より、現在二段。

(在日米人新聞に投稿したものを訳し掲載する。訳 加藤秀夫)



カット 名短付高 安藤実和子

宏武館は現在、師範辻民雄氏(七段、大垣市役所を退職された方)及び、藤原正道氏(七段、日本耐酸塩(株)の社員、同社は実業団日本一の剣道チームである)の指導のもとにある。先生方の忍耐強い指導のもとに、私は二段を頂いている。

道場で剣道を稽古されているのを見ていると、パノラマを見ているような感じがする。私が最初に気づいたことは、竹刀の音などの非常に無遠慮な騒音である。竹刀の打つ音、競技者が前進時、素足で板の間をびしゃりと打つ(踏み込む)音、そして特に気合、これは戦闘員(競技者)の自己を鼓舞し、自己を主張するために耳をつんざくばかりの繰り返し発せられる叫び声である。

剣道家のユニフォームは、それ自体ユニークである。各競技者は、袖付きの上着(稽古着)及び、割れたスカート(袴)を着ている。

防具は、どっさり詰り物と詰め物をされた手袋(籠手)、硬質プラスチック製又は、皮製の胸のプロテクター(胴)、そしてヘッドギア(面)。それは肋骨状鉄製の顔面ガード及び、防護的ノド布片(突)、そして両肩まで広がった木綿製のフラップ(面ぶとん)がつけられている。このような装いで、

会員の声

剣道のすばらしさ

名短付高二年

二ツ石佳世

高校に入るまで、私は『剣道』というものに対して全くといっていい程、関心がありませんでした。そんな私が、今その『剣道』をやっているなんて奇妙な話ですが、実際なんでこんなにやりがいのあるスポーツに関心がなかったのか、正直いって不思議なぐらいです。以前私は、ずっと文化部でした。

もちろん、体力・精神力にあまり関係のない分野です。もともと運動神経の良い方ではなかったので、高校へ行ったら運動部に入ろうなどという考えは、当時の私の頭の中にはありませんでした。にもかかわらず、私は意外にあっさり剣道部に入部したのです。

最初のうち、まだ始めたばかりの頃は、不安と劣等感でいっぱいでした。もちろん初心者には私だけではあ根っから、自分は運動神経が悪いからダメだろう」と自分で決めつけていたのです。いつも逃げてばかりの



カット 名短付高 岩田恵美

つけられている。このような装いで、剣道競技者の目的は、対戦者の手首、胸、頭の頂部及び側面部、そしてノドを竹製の刃の先端部で打つことである。これにはスピード、素早い反作用、及びタイミングが要求される。しかし、忍耐とリラクセスした精神の心構えがより大切である。

剣道は、すべてのスポーツがそうであるように、たゆまない練習を通して得られる精神的訓練を要求している。剣道の基本的訓練を要求している。「気」(精神、勇気、精力)、「剣」(刀)、及び「体」(生来の身体力)である。

剣道において精神的に強調されることは、どこまで精神が集中したか弱人間でした。

けれど、今は違います。毎日毎日つらい練習にもなんとか耐えてきました。今の私に、もう不安や劣等感などありません。むしろ自信に満ち充実している気がします。

昨年の五月頃から始めて、もう二度目の冬に入ろうとしています。人一倍忍耐力のなかった私にとって、剣道の練習ほどこたえるものはないと思います。それが今までこうして続いているのは、何よりも沢山の仲間がいることだと思います。そして、剣道によって自分を大きく変えることができたこと、また、剣道を通じて学び得た事があらゆる面においてプラスになる、といったような魅力があったからだと思います。特に仲間が多いということは私の心の支えです。これから先、十年、二十年と生きていくうちに、いろいろな壁にぶつかることがあると思いますが、剣道によって得た事を心において、一步一步しっかりと歩いて行こうと思っています。また、できるだけ剣道をつづけたいと思っています。

会員の声

剣道大好き

名短付高一

水野幸子

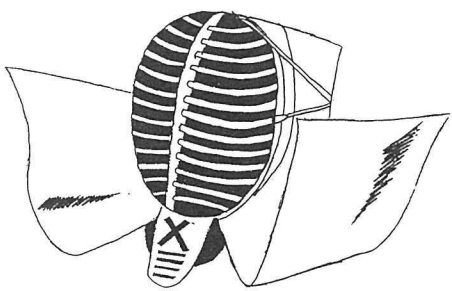
私は高校に入ってから剣道を始めました。それまで「剣道」という言葉ぐらいは知っていましたが、実際にやったわけでもなければ、見た事もなかったくらいだったのです。こんなふうだったので、剣道部に入ったというきっかけも、自分から進んで入ったわけではなくて、友達に誘われたからでした。

そんないかげんな気持ちで始めたのですが、いつの間にか下から「先輩」と呼ばれるまで続けることができ、昔のことを思うと不思議にさえ思えます。それは「剣道が好き」だからでしょう。誰も口に出して言ったりはしませんが、夏には汗をこれ以上出ない程かき、冬には冷たい道場で素足、これは好きでなければできないと思います。

確かに続けていて、良い事というのは数える程です。ケガはするし、思い通りの打ちができない時などはやめたくなることもあります。か

言えば、調子がいいときなどは剣道がおもしろくてしかたがないこともあるのです。

以前、何かの雑誌である先生が、「最近ようやく剣道がわかってきたような気がします」と言っておられました。しかし、私なんかは、はっきり言って剣道がわかりません。だけど大好きです。大きな声を上げ、気をはる独特の緊張感、集中力、きつとこれが私が剣道を好きである理由だと思えます。そしていつか人に「剣道とは」と尋ねられた時、この感じが口で伝える事ができるようになれば最高だと思っています。



名短付高一 光本美保 カット

後年全国選手権大会に優勝した名選手に成長しました。

小石原七郎選手も鈴木守治選手の一年後輩で、抜群の技量の持ち主、京都武専を卒業、大いに将来を……と思っておりましたが、無念！健康を害された由で誠に残念この上ありません。

昭和十二年頃になり戦火拡大、この頃齊村先生からお話がありまして、私は福岡県立鞍手中学校（直方市にある）へ奉職し、国語と剣道を担当致しました。直方市は筑豊炭田の中心都市。剣も強いが気も荒い土地柄でしたが、私の若さと剣道の気力ですり切りしました。

戦争が激烈になりました、私にも赤紙が参りました。私は戦地に参らずにすみましたが、終始初年兵の教育係を命ぜられまして、召集されて入営された新兵さんを、三ヶ月教育しては戦地へ送り出しました。昭和十四年三月、召集を解除されました。

同年四月、朝鮮におられる加藤圓三郎恩師先生をたよって朝鮮木浦公立商業学校に奉職、木浦公立中学校も兼任致しました。学校においても教練の授業を大半に、剣道と国語を持って多忙な日々を送りました。

昭和二十年八月、思いもよらない

各地区剣連だより

東三河剣道連盟

範士称号を授与されて

剣道範士七段 小栗呂一

私は旧宝飯郡八幡村の小作農家小栗三郎とえいとの間に三男坊主として生まれました。兄の岩次が岡崎師範学校で剣道を学び、実家の近くの国府小学校で生徒達に剣道の指導をして居りましたので、私も時々剣道を教えて貰いました。そんな関係で小学生の時から剣道を始めました。

豊橋市立商業学校に進みましてからは鈴木房吉先生に師事して、本格的に剣道の修行に励みました。鈴木房吉先生は陸軍戸山学校、更に陸軍士官学校に奉職されて、足掛け八年半の間東京において剣道の修行に励まれ、大正十一年に剣道精錬証を拝授されました。翌昭和十二年四月豊橋市立商業学校開校にあたり、乞われて同校に奉職されました。

私は鈴木房吉先生の御指導に依り

終戦を迎えました。占領軍の命令によりまして剣道は禁止されました。以後七年間は竹刀を持つことの出来なかつた剣道愛好家達は、云い知れぬ思いの毎日を送ったことでしょう。

昭和二十七年になりました、禁止令が解除になりますと、早速全日本剣道連盟が発足し、各地で地区剣道連盟が活動を始めました。

東三河に於きましても、範士鈴木房吉先生を中心に、同志等が剣道連盟を結成致しました。鈴木房吉先生は故堀田徳次郎範士の直弟子で、常に堀田先生の教えであります。

稽古は形のごとく、短かく、荒く長く稽古をすると気分がだれてくるから、短かく、非常に激しく、そして回数も多く、繰り返して稽古せよ。

を常に私達に申されておりました。

第一に無念無想で試合に臨み、その試合に同化して、双方の剣の動きを全く心眼に映せしむること。第二に刺撃と判決とか間髪を容れざる程度にほとんど同時に行われ得ること。

と私達が審判に立つ場合の心掛けについて、堀田先生のお気持ちを話して下さいました。私は東三剣連の理

まして著しく上達致しました。当時私の上に上級生が二組ありましたが、三年の時から正選手となり、各大会に出場できるまでになりました。県内外の剣道大会にも、団体或は個人に於いて優勝出来る様になりました。私が五年生の時には、世紀の風雲児とも云うべき剣児・鳥居正芳君の大活躍によって各大会に優勝し、豊商の名を大いに高揚しました。鳥居君は万能選手でして、剣道は勿論、野球でこい、陸上でこい、何でも抜群の才能の持ち主でありました。後年剣道七段になられました。惜しんでもあまりある人物でした。当時豊商の鳥居大将、小栗副将で県下を制した記録もあります。

鈴木先生の御紹介もありまして、開校二年目の国士館専門学校へ進学することが出来ました。現在は数学部を置く総合大学としての国士館大学も、昭和五年頃の当時の国士館は剣道科・柔道科併せて百名の生徒数で、全寮制の生徒が早朝五時から道場に集合、猛烈な朝稽古を日課とし

事となり、後進者の指導に当たると共に、地区署員の剣道練習の援助並びに高等学校の剣道講師として学生の指導に当りました。昭和二十九年教士、三十四年七段。

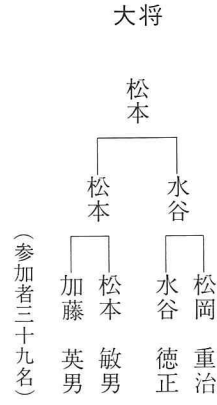
昭和五十二年、東三河剣道連盟の副会長を拝命致し今日に至っております。

少年剣道が盛んになり、蒲郡市に於いても百数十名の少年剣士達が元気に稽古を続けておりますが、稽古が夜間のため子供の送り迎えが父兄の大きな負担となります。その為、蒲郡の場合、練習場を三ヶ所に分け、蒲郡・形原・三谷と致しました。是れによって、形原や三谷の遠隔地から蒲郡の中央部に集まる不便が解消されました。父兄の皆さんも負担が軽くなったことを喜んでおられます。私は毎週三回ずつ竹刀を握って、少年剣士達と剣道の稽古を致しております。

平成元年五月八日付で、剣道範士の称号を授与されました。私には重すぎる範士の責任ですが、授与されました以上私の力の限り責任を全うすることを、故恩師鈴木房吉範士の御霊前に御約束を致して参りました。

	実業団	警察	教職員	官公庁	学生	一般
実業団		$\frac{8}{5}$	$\frac{3}{1}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{2}{0}$	$\frac{1}{0}$
警察	$\frac{3}{1}$		$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{2}$	$\frac{2}{0}$	$\frac{0}{0}$
教職員	$\frac{12}{5}$	$\frac{11}{6}$		$\frac{7}{4}$	$\frac{5}{2}$	$\frac{9}{4}$
官公庁	$\frac{5}{2}$	$\frac{6}{4}$	$\frac{5}{3}$		$\frac{4}{2}$	$\frac{3}{1}$
学生	$\frac{8}{5}$	$\frac{12}{6}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{12}{5}$		$\frac{8}{5}$
一般	$\frac{8}{5}$	$\frac{14}{8}$	$\frac{11}{5}$	$\frac{10}{5}$	$\frac{6}{2}$	
得点	3 $\frac{36}{18}$	5 $\frac{51}{29}$	2 $\frac{27}{13}$	4 $\frac{37}{19}$	19 $\frac{6}{6}$	1 $\frac{21}{10}$
順位	3	1	4	2	6	5

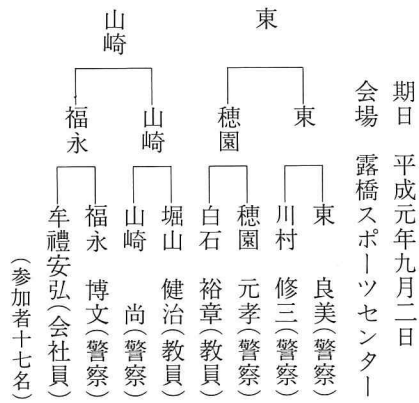
第22回愛知県六団体対抗剣道大会
 期日 平成元年七月二日
 会場 枇杷島スポーツセンター



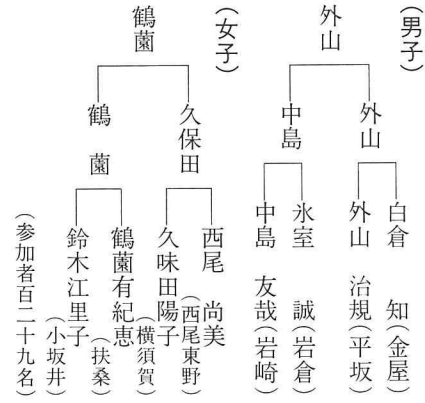
第17回教職員地区対抗剣道大会
 期日 平成元年五月二十一日
 会場 露橋スポーツセンター

	尾張	西三河	東三河	尾南	名古屋
尾張		$\frac{14}{5}$	$\frac{5}{1}$	$\frac{15}{4}$	$\frac{13}{4}$
西三河	$\frac{13}{4}$		$\frac{9}{3}$	$\frac{10}{3}$	$\frac{6}{2}$
東三河	$\frac{22}{8}$	$\frac{18}{6}$		$\frac{21}{7}$	$\frac{23}{7}$
尾南	$\frac{12}{5}$	$\frac{17}{6}$	$\frac{6}{2}$		$\frac{23}{8}$
名古屋	$\frac{14}{5}$	$\frac{21}{7}$	$\frac{4}{2}$	$\frac{4}{1}$	
得点	3 $\frac{61}{22}$	4 $\frac{70}{24}$	$\frac{24}{8}$	1 $\frac{50}{15}$	2 $\frac{65}{21}$
順位	2	1	5	4	3

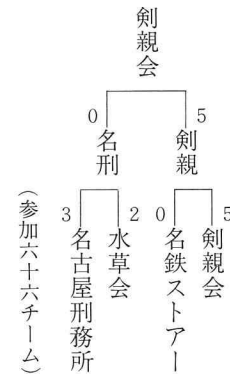
第2回五地区居合道大会
 期日 平成元年五月十四日
 会場 露橋スポーツセンター



第37回全日本選手権県予選
 期日 平成元年九月二日
 会場 露橋スポーツセンター

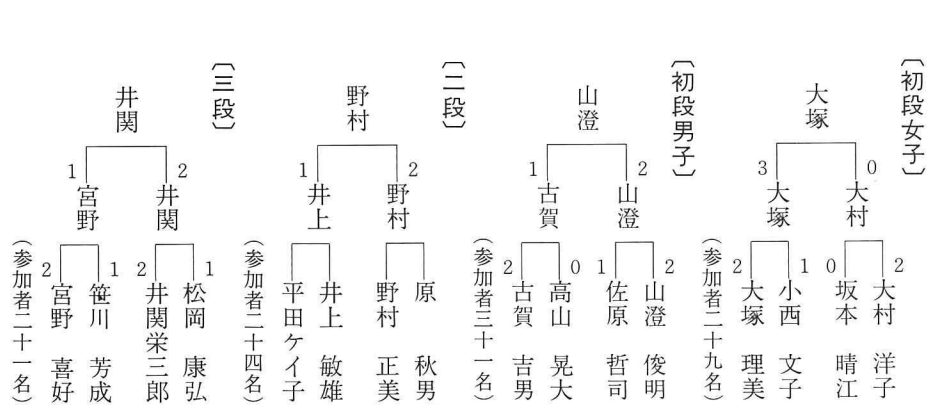


第21回愛知県夏季少年剣道大会
 期日 平成元年八月十三日
 会場 名古屋市総合体育館

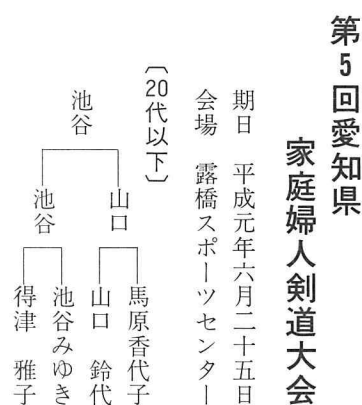


第5回尚武杯争奪剣道大会
 期日 平成元年六月四日
 会場 露橋スポーツセンター

	西三河	尾張	名古屋	尾南	東三河
西三河		$\frac{8}{2}$	$\frac{7}{3}$	$\frac{4}{1}$	$\frac{6}{3}$
尾張	$\frac{11}{4}$		$\frac{10}{6}$	$\frac{7}{3}$	$\frac{5}{3}$
名古屋	$\frac{5}{3}$	$\frac{5}{2}$		$\frac{10}{5}$	$\frac{5}{2}$
尾南	$\frac{10}{5}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{8}{3}$		$\frac{8}{4}$
東三河	$\frac{6}{4}$	$\frac{4}{2}$	$\frac{12}{6}$	$\frac{7}{3}$	
得点	3 $\frac{32}{16}$	$\frac{23}{9}$	3 $\frac{37}{18}$	2 $\frac{28}{12}$	2 $\frac{24}{12}$
順位	2	5	1	3	4

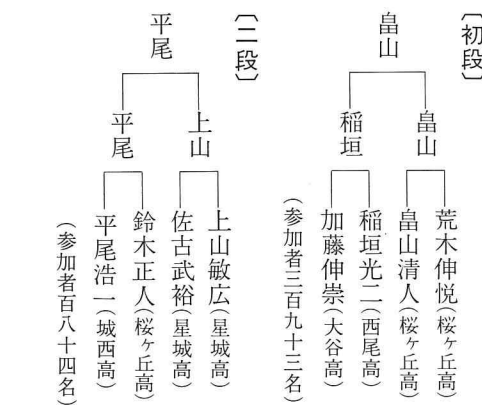


第12回愛知県制定居合道段別選手権大会
 期日 平成元年九月三日
 会場 露橋スポーツセンター

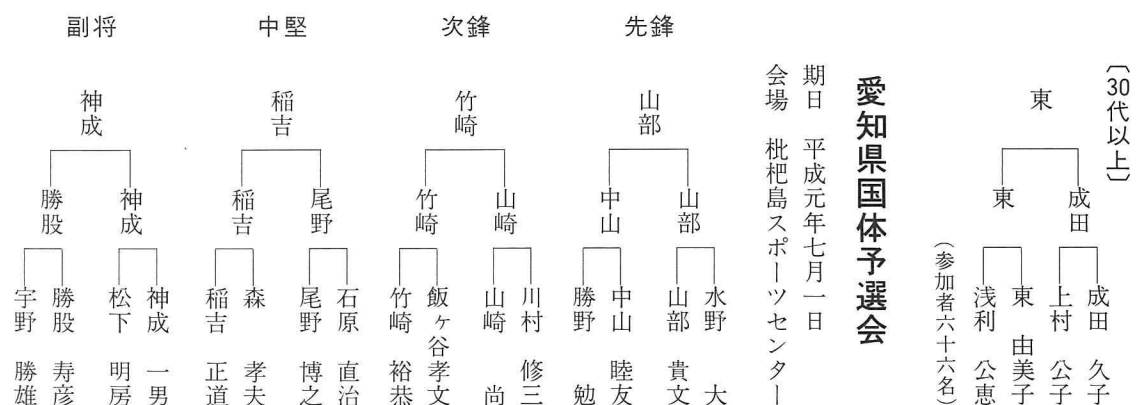
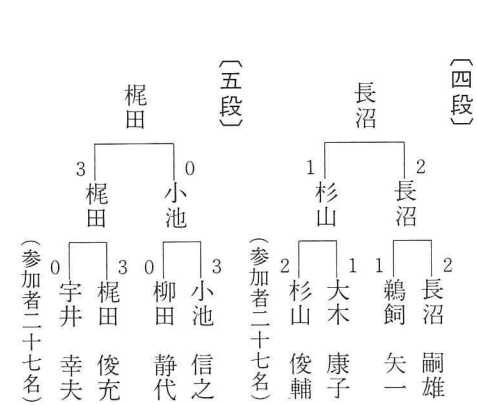


熱田神宮奉納剣道大会
 期日 平成元年六月五日
 会場 神宮境内仮設道場

	西三河	尾南	名古屋	尾張	東三河
西三河		$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{1}$	$\frac{2}{0}$	$\frac{2}{1}$
尾南	$\frac{6}{3}$		$\frac{3}{2}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{2}$
名古屋	$\frac{3}{1}$	$\frac{4}{3}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{0}$
尾張	$\frac{10}{5}$	$\frac{7}{4}$	$\frac{8}{4}$		$\frac{6}{3}$
東三河	$\frac{7}{4}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{9}{5}$	$\frac{4}{2}$	
得点	3 $\frac{26}{13}$	3 $\frac{19}{11}$	3 $\frac{24}{12}$	$\frac{6}{2}$	1 $\frac{12}{6}$
順位	1	3	2	5	4



第21回剣道段別選手権大会
 期日 平成元年九月二十三日
 会場 名古屋市総合体育館



愛知県国体予選会
 期日 平成元年七月一日
 会場 枇杷島スポーツセンター

手数料一覧

平成元年4月1日実施

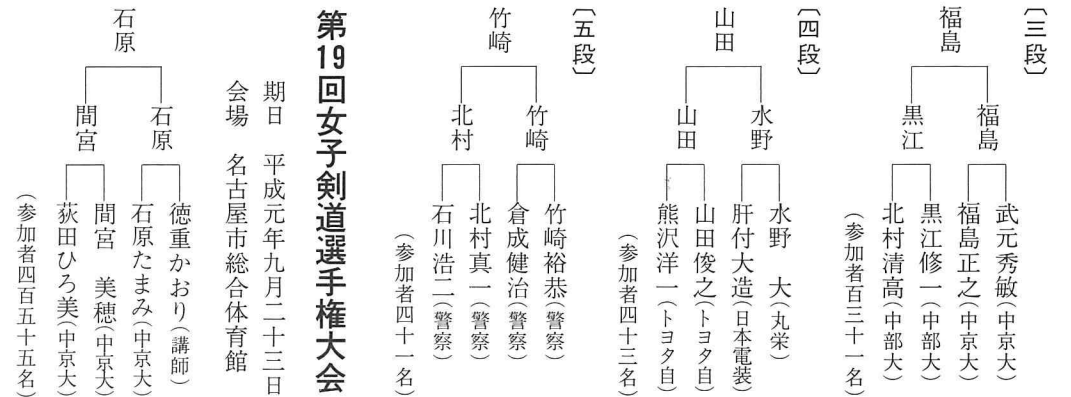
	審査料	登録料
8～2級	720円	1,130円
1級	820円	1,550円
初級	1,440円	3,090円
弐段	1,650円	3,610円
参段	2,370円	5,150円
四段	2,880円	6,390円
五段	3,710円	9,580円
六段	8,240円	20,600円
七段	11,330円	32,960円
八段	14,420円	48,410円
称号		
錬士	15,450円	26,780円
教士	22,660円	38,110円

財団法人 愛知県剣道連盟

※1級受験に際し、愛知県剣道連盟入会金として終身会費5,000円を納入しなければなりません。

第19回女子剣道選手権大会

期日 平成元年九月二十三日
会場 名古屋市長合体育館



段位	修業年限	年齢・その他
初段	1級受有後 3ヶ月以上	1級受有者 中学2年生以上
2段	初段受有後 1年以上	高等学校生徒以上 (相当年齢)
3段	2段受有後 2年以上	
4段	3段受有後 3年以上	
5段	4段受有後 4年以上	
6段	5段受有後 5年以上	
7段	6段受有後 6年以上	
8段	7段受有後 7年以上	満48歳以上
9段	8段受有者	75歳未満 満65歳以上

留意事項
平成二年三月三十一日以前の段位保有者が、次の段位を受審する場合の修業年限は、旧規程による。

事務局だより

修業年限が左記の通りに改正されました。

剣道学科問題

- 平成二年度、学科試験について
- 一、出題教科書
 - ☆初段の部 (1) 剣道の理念 (2) 剣道の訓
 - ☆二・三段の部 (1) 剣道の理念 (2) 剣道の訓
 - ☆四・五段の部
 - (1) 剣道の理念と修練の心構え
 - (2) 剣道の訓
 - (3) 幼少年指導要領
 - (4) 審判法
 - (5) 日本剣道形

杖道学科問題

- 三段以下
- イ、道場での練習の心得を簡単に記せ。
 - ロ、準備運動について述べよ。
 - ハ、自分の修めた技の名称について記せ。
- 四段以上
- イ、六本目の動作を述べよ。
 - ロ、杖道の特色について記せ。
 - ハ、懸待一致について述べよ。

居合道学科問題

- 初段—三段 (レポート)
- 居合道の作法について述べよ。
(神前の札から帯刀まで)
- 四・五段
居合道の作法について述べよ。



平成2年度事業計画(案)

財団法人 愛知県剣道連盟

Table with columns for month (8, 9, 10, 11) and day, listing events, venues, and times. Includes sub-sections for '剣道合同練習' and '各地区自主練習開催日'.

平成2年度事業計画(案)

財団法人 愛知県剣道連盟

Table with columns for month (4, 5, 6, 7) and day, listing events, venues, and times. Includes sub-sections for '剣道合同練習' and '各地区自主練習開催日'.

期日 平成二年六月二十四日(日)十時

第6回愛知県 家庭婦人剣道大会

参加料 一人五百円(含傷害保険料)
 申込期日 平成二年五月九日(水)
 ③参加者に参加賞を贈る
 賞状を贈る

試合方法 トーナメント方式
 表彰 ①優勝チームに優勝杯を授与する(持ち回り)
 ②優勝より第三位まで賞品・賞状を贈る
 ③参加者に参加賞を贈る

参加料 一人五百円(含傷害保険料)
 申込期日 平成二年八月十八日(土)
 ②参加者に参加賞を贈る
 表彰 ①優秀者に賞状・賞品を贈る

用具 居合刀又は日本刀、ゼッケンをつける
 ④段外は個人演武とする
 ③トーナメント方法
 ②制限時間五分とする
 ①全日本剣道連盟制定居合五本とする(当日指定)
 試合方法 ①全日本剣道連盟制定居合五本とする(当日指定)
 会場 名古屋総合体育館
 競技種別 原則として、初段・二段は男女別とし、三段以上は男子と一緒に行う

参加料 一人五百円(含傷害保険料)
 申込期日 平成二年八月二十五日(水)
 ②参加者全員に参加賞を贈る
 表彰 ①優秀者に賞状・賞品を贈る
 試合方法 トーナメント方式
 会場 名古屋総合体育館
 参加資格 愛知県剣道連盟の会員であること

期日 平成二年九月二三日(日)
 九時三十分
 会場 名古屋総合体育館
 参加資格 愛知県剣道連盟の会員であること
 ②参加者全員に参加賞を贈る
 参加料 一人五百円(含傷害保険料)
 申込期日 平成二年八月二十五日(土)
 ②参加者全員に参加賞を贈る
 表彰 ①優秀者に賞状・賞品を贈る
 試合方法 トーナメント方式
 競技種別 初段から五段までの各段別
 会場 名古屋総合体育館
 参加資格 愛知県剣道連盟の会員であること

第21回愛知県 女子剣道選手権大会

期日 平成二年九月二三日(日)
 九時三十分
 会場 名古屋総合体育館
 参加資格 愛知県剣道連盟の会員であること
 ②参加者全員に参加賞を贈る
 参加料 一人五百円(含傷害保険料)
 申込期日 平成二年八月二十五日(土)
 ②参加者全員に参加賞を贈る
 表彰 ①優秀者に賞状・賞品を贈る
 試合方法 トーナメント方式
 競技種別 初段から五段までの各段別
 会場 名古屋総合体育館
 参加資格 愛知県剣道連盟の会員であること

大会要項

第6回尚武杯争奪剣道大会

期日 平成二年六月三日(日)十時
 会場 枇杷島スポーツセンター
 参加資格 本連盟の会員であること
 競技種別 一般(一チーム五名の団体戦)

第13回愛知県制定 居合道段別大会

期日 平成二年九月二日(日)
 九時三十分
 会場 露橋スポーツセンター
 参加資格 既婚の女性であること
 表彰 ①優秀者に賞状・賞品を贈る
 ②参加者に参加賞を贈る
 参加料 一人五百円(含傷害保険料)
 申込期日 平成二年六月九日(土)

第23回愛知県 剣道段別選手権大会

期日 平成二年九月二十三日(日)
 九時三十分
 会場 名古屋総合体育館
 参加資格 愛知県剣道連盟の会員であること

第9回高段者大会

期日 平成二年十月十四日(日)十時
 会場 名古屋総合体育館
 参加資格 本連盟会員であること
 参加種目 剣道 六段〜八段
 杖道(形) 六段以上
 申込方法 平成二年十月四日(水)
 ※申込用紙が足りない場合は、コピーしてお使い下さい。

名古屋市剣道連盟 事務所移転のご案内

この度懸念でありました事務局の設置につきまして、準備委員会の協力により下記のとおり新設し、専従者を配して運営いたすことになりました。

所在地 二四五-一
 名古屋西区藤の宮通三一五
 川津ビル四〇五
 名鉄栄生駅下車スグ前
 TEL 〇五二一五八六一六八五〇
 FAX 〇五二一五八一八八八八
 専従事務員 渡辺明子
 日時 休日：日・火・土
 月・水・金：十時〜十六時

平成2年度事業計画(案)

12月		1月		2月		3月	
日	場所・時間	日	場所・時間	日	場所・時間	日	場所・時間
1土		1金		1金		1金	
2日	△西三河級審査会	2土		2土	10:00 枇杷島	2土	△東海四県対抗剣道大会(例)
3月	△尾南級審査会	3日	9:30 田崎	3日	9:00 露橋	3日	△東海四県対抗剣道大会(例)
4火		4金		4月		4月	△東海四県対抗剣道大会(例)
5水		5土		5火		5火	△東海四県対抗剣道大会(例)
6木		6日	10:00 露橋	6水		6水	△東海四県対抗剣道大会(例)
7金		7月		7木		7木	△東海四県対抗剣道大会(例)
8土	△名古屋精め・忘年会 剣道・居合・杖道	8火		8金	18:30 東知	8金	△東海四県対抗剣道大会(例)
9日	△東三河級審査会・稽古・忘年会	9水		9土	9:30 東海M	9土	△東海四県対抗剣道大会(例)
10月	△西三河級審査会	10木		10日	10:00 東海M	10日	△東海四県対抗剣道大会(例)
11火		11金	18:30 立	11月	10:00 新城中	11月	△東海四県対抗剣道大会(例)
12水		12土		12火	10:00 西尾東	12火	△東海四県対抗剣道大会(例)
13木		13日	18:30 知	13水	9:00 露橋	13水	△東海四県対抗剣道大会(例)
14金		14月		14木		14木	△東海四県対抗剣道大会(例)
15土		15火	15:00 西尾	15金		15金	△東海四県対抗剣道大会(例)
16日		16水	10:00 西陵商	16土		16土	△東海四県対抗剣道大会(例)
17月		17木		17日	10:00 北本市	17日	△東海四県対抗剣道大会(例)
18火		18金		18月		18月	△東海四県対抗剣道大会(例)
19水		19土	15:30 羽	19火		19火	△東海四県対抗剣道大会(例)
20木		20日	13:00 中京大	20水		20水	△東海四県対抗剣道大会(例)
21金		21月		21木		21木	△東海四県対抗剣道大会(例)
22土		22火		22金		22金	△東海四県対抗剣道大会(例)
23日		23水	13:00 県スポ	23土		23土	△東海四県対抗剣道大会(例)
24月		24木		24日	13:00 県スポ	24日	△東海四県対抗剣道大会(例)
25火		25金	9:00 豊	25月	9:00 名総体	25月	△東海四県対抗剣道大会(例)
26水		26土		26火	9:00 豊橋	26火	△東海四県対抗剣道大会(例)
27木		27日	9:00 福永	27水		27水	△東海四県対抗剣道大会(例)
28金		28月		28木		28木	△東海四県対抗剣道大会(例)
29土		29火					△東海四県対抗剣道大会(例)
30日		30水					△東海四県対抗剣道大会(例)
31月		31木					△東海四県対抗剣道大会(例)

備考 ●全剣連 ▲県連 △県連関係 ※その他
 居合道・杖道合同練習 毎月第1回(13:00)県スポ
 各地区自主練習開催日 名古屋 毎月第2月曜日・第3金曜日(19:00) 尾張 毎月第1日曜日 尾南 毎月第1金曜日(19:00) 西三河 毎月1回 東三河 毎月第2・第4金曜日
 剣道合同練習 毎月第2月曜日を除く毎月曜日(18:00)枇杷島
 西三河地区合同練習 毎月第2土曜日(18:30)知立福祉体育館

第 6 回尚武杯争奪剣道大会申込書

下記のとおり申込みします。 平成 年 月 日

申込み責任者 _____ TEL _____
住 所 _____

チーム名 [_____]

	段 位	氏 名	年 齢	会 員 番 号
先 鋒				
次 鋒				
中 堅				
副 将				
大 将				

※参加料…一人500円(含傷害保険料)申込みと同時
※申込締切日…平成2年5月9日(火)

-----キ リ ト リ 線-----

第 6 回愛知県家庭婦人剣道大会申込書

下記のとおり申込みします。 平成 年 月 日

氏 名		年 月 日(生)	才
住 所	TEL		
段級位		主な稽古場所	
職 業		会 員 番 号	

※メンバー構成上年齢(8月7日現在)は正確に記載の事
※参加料…一人500円(含傷害保険料)申込みと同時
※申込期日…平成2年6月9日(土)

第13回県制定居合道段別大会申込用紙

下記のとおり申込みします。

平成 年 月 日

段 位		氏名				
流 派		年齢	才	性別	男・女	
主な練習場所						
会 員 番 号		学校・勤務先				
住 所					TEL	

※参加料…一人500円(含傷害保険料)申込みと同時
※締切日…平成2年8月18日(土)

-----キ リ ト リ 線-----

第23回愛知県剣道段別選手権大会申込書

下記のとおり申込みします。

平成 年 月 日

段 位		氏名				
会 員 番 号		年齢	才	性別	男・女	
電 話		学校・勤務先				
住 所						

※参加料…一人500円(含傷害保険料)申込みと同時
※締切日…平成2年8月25日(土)

第21回愛知県 **女子** 剣道選手権大会申込書

中学・高校・大学、一般

※上記該当のところに○印を付して下さい。

下記のとおり申込みします。

平成 年 月 日

段 位		氏名				
会 員 番 号		年 齡	才	学 年		
電 話		学 校 ・ 勤 務 先				
住 所						

※参加料…一人500円(含傷害保険料) 申込みと同時に

※締切日…平成2年8月25日(土)

----- キ リ ト リ 線 -----

第9回高段者大会申込書

剣 道・居合道・杖 道

※該当種目に○印を付して下さい。

下記のとおり申込みします。

平成 年 月 日

氏 名		年 月 日 生	才
住 所	TEL		
称 号	士	年 月 取得	
段 位	段	年 月 取得	
過去の 対戦者	平成元年	氏 名	
	昭和63年	氏 名	

※締切日…平成2年10月4日(木)



訃報

三輪田 薫（七十一歳）

剣道教士 七段

前東海学生剣道連盟会長

元愛知県剣道連盟理事

前名古屋市剣道連盟副会長

平成元年八月三十一日 逝去

謹んで御冥福を

お祈り申し上げます。

事務局の協力を得て広報委員会
により編集。

副理事長

鈴木健一

委員長

木本三夫

委員

中川治彦

委員

渡辺一民

委員

若松幸雄

広報「観の眼」第十三号

平成二年三月三十一日

財団法人 愛知県剣道連盟

〒453 名古屋市 中村区 鳥居通り二丁目

ウチフジビル二階

電話 〇五二〇 四八一〇〇九三

FAX 〇五二〇 四八一〇〇九五

題字・名誉会長 竹田弘太郎氏